

△危険なスポット



細い路側帯にコケが生えていて、雨の日は滑りやすくなっている。また、木が斜めに生えていて、斜面がむき出しになっているため、土砂崩れの際に危険である。



木が伸びすぎている。災害時に木が倒れた場合、下の家が木で押しつぶされる可能性がある。また、茂みから動物が出てくる可能性があり、家が近い場合危険である。

木の根がむき出しになっていて危険である。枝が伸びており、道路に覆い被さっているため、通行の妨げになる。



木が電線に乗っており、電線が切れる可能性がある。木は切られているものの、電線が近いので、切る作業が大変だと思われる。



MIKIWI

MIKIWIは、2014年にニュージーランドの生産者であるベネス・ヤンとレモン・クレイグ、日本の投資家によって設立された。MIKIWIの特徴として、日本政府とゼスプリが承認した安心安全で環境にやさしい農業を使用しており、なおかつ効率的な灌漑システムを導入することで最小限の水の使用に抑えることが可能であることが挙げられる。また、最高水準の園芸技術に基づきキウイフルーツを栽培することを目的としているため、写真の通りとてもきれいな見た目である。



会社情報 | 株式会社マイキウイ

朝草大師堂

外観はこぢんまりとしており、一見すると大師堂とはわかりにくい佇まいだが、敷地内に植えられている木々は丁寧に手入れされており、地域の方々に大切にされている様子が伝わってきた。また、大師堂とは弘法大師をお祀りするための小さなお堂であり、人々がお参りして感謝や祈りを捧げる場所である。そのため何気ない道端や神社の片隅にボツンと建っていることともあるが、地元の信仰や思いがこもった大切な場所でもある。



大師堂とは？ 意味をやさしく解説。サードベディア百科事典

2 都農町コミュニティバス（下菰生）



ここ！



・バス停下菰生（しもうりゅう）について

20班の行動範囲のスタート地点。バス停は道路から遠く、歩道よりさらに内側の草の生い茂る場所に立っていた。背も低く道路から視認しづらい可能性がある。看板にはところどころ傷や汚れがあって、コミュニティバスは長い間使用されていることがわかる。また、時刻表を見ると、このバスは土日祝及び年末年始以外は運営しているバスである。路線は6つ存在し、午前7時から午後16時まで1日に約16本のバスが停車する。交通量の少ない地域ではフリー乗降ができ、手を挙げれば任意の場所で乗り降りができる。

・都農町コミュニティバスについて

三和交通グループが運行している地域福祉バスである。目的は通学路線及び生活路線の確保のため、都農町の特産物や都農町観光協会キャラクターのびよんをラッピングしたバス（14人乗り型ワゴン）で町内を巡回している。料金は1人1回あたり200円（小学生以下は100円）。

参考文献：都農ページ（都農町公式ホームページ）、コミュニティバス（地域福祉バス）の運行について、2025.6/11、<https://www.town.tsuno.lg.jp/article?articleId=604ec335889ebd12ec584b26>

防火水槽

防火水槽とは、火災発生時に消防隊や消防団が消火活動に使用する大量の水を蓄えておく消火用の水源の一つであり、国や地方自治体が管理する公園や緑地、広場、公民館の敷地などに設置されていることが多い。防火水槽は火災発生時の消火活動に不可欠な設備だが、その周りに駐車スペースが作れないというデメリットもある。今回見つけた防火水槽は、水はしっかりと貯まっていたが、あまり手入れされていないように見られ、老朽化していた。このまま老朽化が深刻化してしまうと、消火活動に支障をきたしてしまうのに加え、地震等の災害が起きた時に漏水してしまう可能性があり、二次被害が起きてしまうリスクがある。



参考文献：https://tochino.co.jp/article/1898

まとめ

20班のフィールドは都農町の奥の方にあり、草木が生い茂った場所が多く、危険だと感じる場所が多かった。また、一次産業をしている方が多く、広大な田畑が広がっていた。高齢者が多い印象を受けたが、地域のコミュニティバスは平日のみの運行で、スーパーも遠いため、地域住民は日常生活に支障をきたしているようだった。安全面から見ても、至る所に土砂災害の恐れがある場所があり、川も近いので、高齢者が多く生活する場所としては危険だと感じた。